

# 歴民館だより

## 特別展 「ふるさとに伝わる歴史と文化

### ～写真で見る出水、高尾野、野田の文化財～



市指定有形文化財  
三十六歌仙絵扁額  
【出水歴史民俗資料館】



市指定史跡  
薩州島津家の墓  
【武本（上高城）】



市指定史跡  
五万石溝 底水道  
【武本（湯原橋近く）】

開催中



市指定有形文化財  
武家屋敷門（吉満邸）  
【野田町上名】



市指定有形文化財  
木造毘沙門天立像  
【高尾野町下水流】



市指定有形民俗文化財  
餅井の田の神  
【野田町下名】

### 「特別展」の開催を通じて

出水歴史民俗資料館では、現在、令和2年度特別展「ふるさとに伝わる歴史と文化 ～写真で見る出水、高尾野、野田の文化財～（会期、12月27日まで）」を開催しています。

国、県、市の指定を受けた文化財だけでなく未指定の文化財も、いずれもそこに暮らす私たちにとって、大切な歴史的、文化的財産であります。

資料館は、「特別展」の開催等のように、様々な活動を通じて、郷土の成り立ちやその素晴らしさを発信する務めを担っています。日々暮らしているながら、見落としがちなる「ふるさと」の「よさ」を資料館の展示を通して感じていただければ幸いです。

近くにお出かけの際、是非お立ち寄りをお願い申し上げます。

#### 出水歴史民俗資料館

出水市本町3番14号  
中央図書館2階  
☎ 0996-63-0256(直通)

#### 高尾野郷土館 古城画伯コレクション館

出水市高尾野町大久保  
158番地5  
☎ 0996-82-5452(図書館)

#### 野田史料館

出水市野田町上名6094番地1  
野田図書館内  
☎ 0996-84-3100(図書館)

## 感謝！団体見学、出前講座

いったんは落ち着くかと思われた「コロナ」でしたが、その後、第二波、第三波と感染の波が押し寄せ、東京、大阪、北海道などの都市圏を中心に、日常生活をはじめ、様々な場面で甚大な影響が出ていると報じられています。

そのような中、団体の方々に歴史館をご利用いただき、また出前講座に呼んでいただきまして、誠に有り難うございます。

9月以降ご利用の団体をご紹介させていただき、お礼に代えたいと思います。

### 【団体見学】

10月23日(金)	さつま町宮之城虎居サロン	13人
10月27日(火)	西出水小学校2年	120人
10月27日(火)	西出水小学校3年	123人
10月30日(金)	米ノ津東小学校特別支援	15人
11月6日(金)	米ノ津小学校3年	56人
11月27日(金)	出水高校1年	134人

### 【出前講座】

11月20日(金)	出水高校1年 「ふるさとの歴史」	134人
11月24日(火)	東出水小学校4年 「山田昌巖のこと」	52人



西出水小学校2年生



西出水小学校3年生



米ノ津小学校3年生



東出水小学校3年生  
出前講座

写真撮影ができた団体のみ掲載しています。

### 史料紹介 古文書

## 米ノ津A家所蔵「弟子名簿」

米ノ津地区に居住される、江戸時代、郷士であったA家から、当家に伝わる古文書の解説を依頼されました。

解説を通じて、少し分かったことについて、右紹介いたします。



○古文書は、9件から構成されるが、すべて名簿である。

○記された年代から、寛政5(1797)年から慶応2(1866)年に作成されたものである。

○文書の記述内容を紹介する。

文書① 土屋権右衛門以下、38人の名が記される。名字から判断して、米ノ津または平松在住の郷士と見られる。

文書② 複数の文書が綴じ込まれている。その一つに、麓町として、古城政助以下、8人の名が記されている。

天野、堀、松野という名前が登場することから、野町(麓町)の町人たちである可能性が考えられる。

別文書には、六月田村として、屋敷名と推定され表記、百姓名と見られる記述がある。農民たちであろう。

さらに別文書には、郷士家名に続けて名前だけが記される。郷士家に仕える使用人ではないだろうか。

文書⑦ 「人 百五拾貳人ノ右郷右衛門弟子取口リノ寛政九年巳正月吉日」とある。郷右衛門は、A家の当主である。

○文書⑦で見ると、A家では、152名の弟子を抱えていたことが窺われ、米ノ津や平松の郷士を始めとして、麓町の町人、六月田村や安原の農民、名古の漁民、また遠くは高尾野郷士と見られる人物たちの名が記載されている。

○A家は、米ノ津永福寺墓地にある寺坂吉右衛門の墓守を務める家柄であるという。

地元の伝承では、吉右衛門は、赤穂浪士四七士の1人であり、仇討ち成就を報告するため、切腹をせず、謎の失踪の後に出水に移り住み、近隣の子弟に武芸を教えたという。

今回の古文書に記された「弟子」が武芸の弟子と仮定するならば、吉右衛門の死後、墓守を務めたA家が、身分に関係なく、出水の人々に広く武芸を教えたとも考えられる史料である。